

SSH中間評価（令和3年度実施）の結果について（総括）

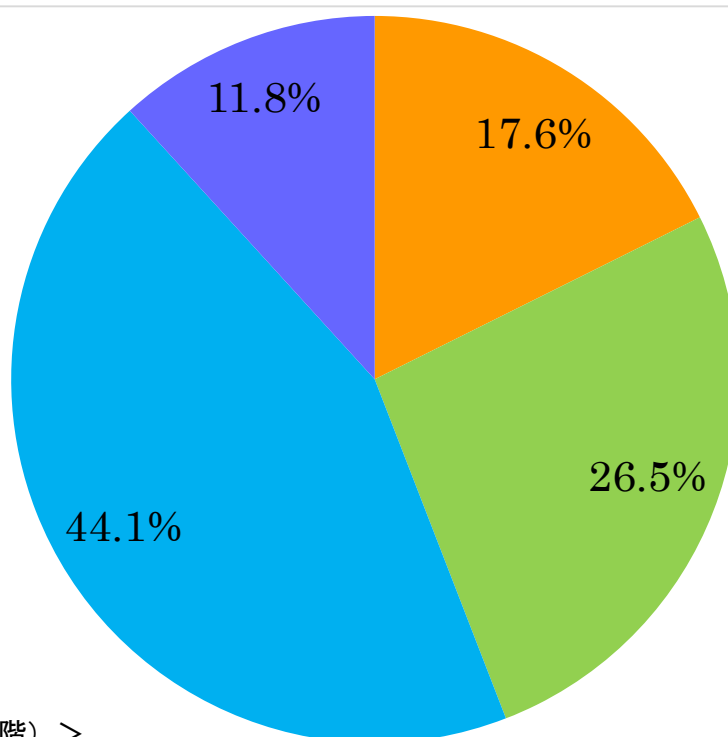
対象校 34 校（開発型・実践型：32 校、先導的改革型 2 校）について、SSH企画評価会議協力者による総合評価及び項目別評価を行った。

※項目別評価の「評価の目安」を見直しており、昨年度以前との単純比較はできない。

I 総合評価

項目別評価の結果を合計し、6段階評価で行った。一定程度以上の高い評価を受けた学校が4割以上だった一方で、一層の改善努力が求められる学校が半数近くあり、また、このままでは研究開発のねらいを達成することは難しいと思われる学校も若干あることが認められた。なお、今後の努力を待っても研究開発のねらいの達成が困難であると思われる学校はなかった。

（1）構成比



<評価の目安（6段階）>

- 優れた取組状況であり、研究開発のねらいの達成が見込まれ、更なる発展が期待される
- これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される
- これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる
- 研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される
- このままでは研究開発のねらいを達成することは難しいと思われるので、助言等に留意し、当初計画の変更等の対応が必要と判断される
- 現在までの進捗状況等に鑑み、今後の努力を待っても研究開発のねらいの達成は困難であり、スーパーサイエンスハイスクールの趣旨及び事業目的に反し、又は沿わないと思われるので、経費の大幅な減額又は指定の解除が適当と判断される

(2) 各対象校の状況 (※は、先導的改革型)

「優れた取組状況であり、研究開発のねらいの達成が見込まれ、更なる発展が期待される」 (0校)

「これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される」 (6校)

北海道滝川高等学校	富山県立富山中部高等学校
福井県立藤島高等学校	三重県立桑名高等学校
岡山県立岡山一宮高等学校	学校法人立命館 立命館高等学校※

「これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる」 (9校)

栃木県立大田原高等学校	埼玉県立熊谷西高等学校
千葉県立船橋高等学校	東京都立戸山高等学校
学校法人大阪医科薬科大学 高槻高等学校・中学校	兵庫県立宝塚北高等学校
兵庫県立小野高等学校	徳島県立科学技術高等学校
愛媛県立松山南高等学校※	

「研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される」 (15校)

宮城県古川黎明中学校・高等学校	福島県立安積高等学校
茨城県立竜ヶ崎第一高等学校・附属中学校	群馬県立前橋高等学校
千葉県立佐倉高等学校	学校法人市川学園 市川高等学校・市川中学校
東京学芸大学附属国際中等教育学校	お茶の水女子大学附属高等学校
神奈川県立多摩高等学校	静岡県立浜松工業高等学校
学校法人静岡理工科大学 静岡北中学校・高等学校	愛知県立旭丘高等学校
三重県立上野高等学校	宮崎県立宮崎北高等学校
沖縄県立向陽高等学校	

「このままでは研究開発のねらいを達成することは難しいと思われるので、助言等に留意し、当初計画の変更等の対応が必要と判断される」 (4校)

岩手県立一関第一高等学校・附属中学校	神奈川県立相模原高等学校
学校法人武庫川学院 武庫川女子大学附属中学校・高等学校	徳島県立富岡西高等学校

「現在までの進捗状況等に鑑み、今後の努力を待っても研究開発のねらいの達成は困難であり、スーパーサイエンスハイスクールの趣旨及び事業目的に反し、又は沿わないと思われるので、経費の大幅な減額又は指定の解除が適当と判断される」 (0校)

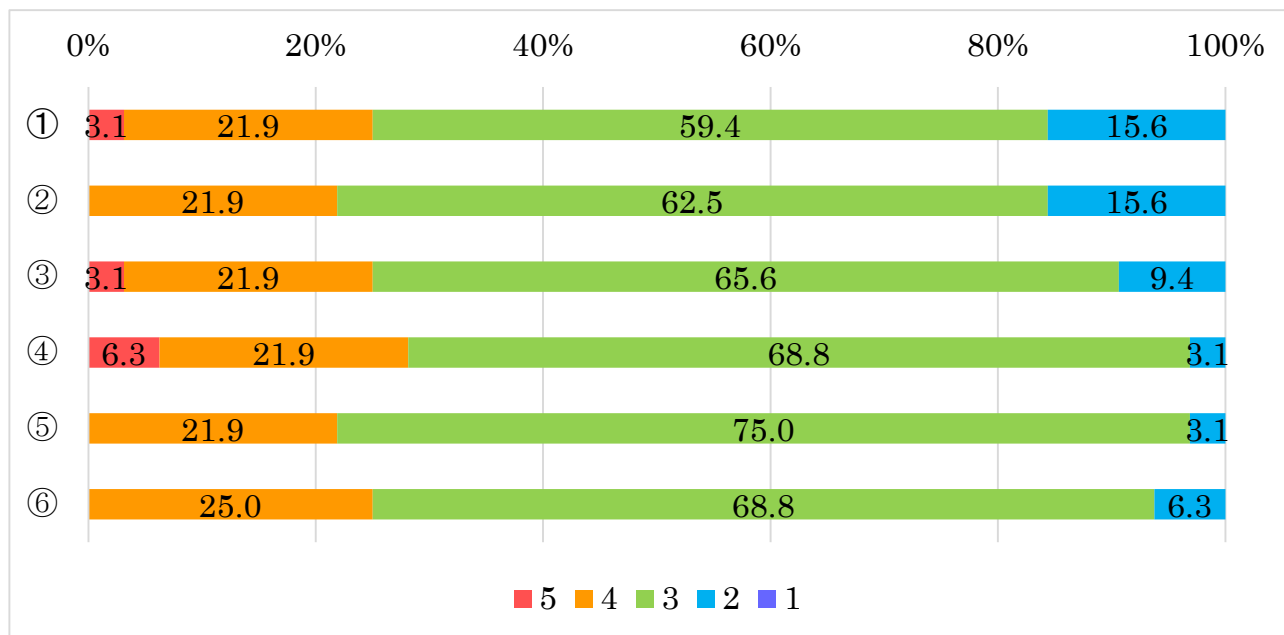
Ⅱ 項目別評価

各評価項目について、5段階評価で行った。

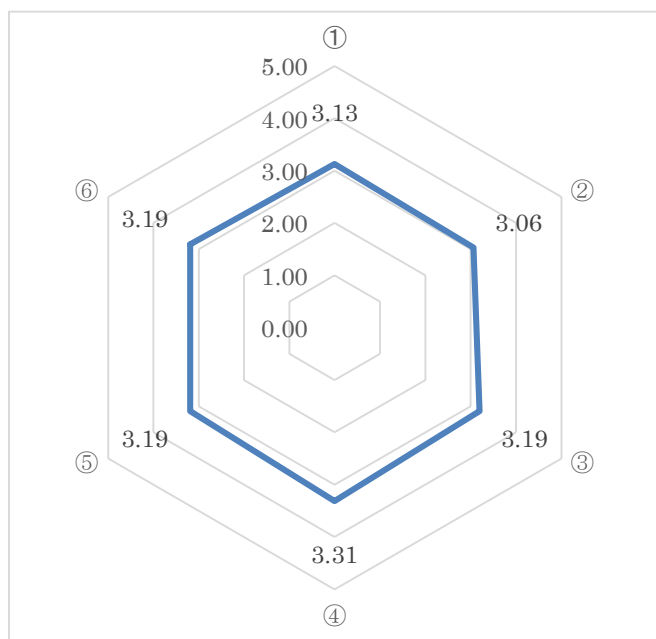
(開発型・実践型の評価項目)

- | | |
|---------------------------|-------------------------------------|
| ①研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価 | ②教育内容等に関する評価 |
| ③指導体制等に関する評価 | ④外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価
(2項目選択制) |
| ⑤成果の普及等に関する評価 | ⑥管理機関の取組と管理体制に関する評価 |

(1) 項目ごとの構成比 (開発型・実践型の場合)



(2) 項目ごとの平均値 (開発型・実践型の場合)



<評価の目安 (5段階)>

- 5 : 研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されていると思われるもののうち、特に程度が高いと思われるもの
- 4 : 研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されていると思われるもの
- 3 : 研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されていると思われるもの
- 2 : 研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要すると思われるもの
- 1 : 研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の大部分が達成されておらず、抜本的な見直しを要すると思われるもの

(3) 項目ごとの概況

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価について

- ・設定した研究開発課題を正面から捉え、生徒の状況をよく踏まえて生徒本意の事業を実施しており、その主体的な変容が多く見られる例等、多くの指定校が適切に取り組んでおり、生徒の変容や進路選択にも成果が認められる。ただし、SSHの趣旨や、当該校の研究開発課題や研究開発の目的・目標に照らし、実施している内容を見直すことが求められる例等も一部に見受けられた。
- ・多くの指定校において、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、海外連携をはじめ、計画の見直しが余儀なくされていた。しかし、そうした中でも、オンラインも活用しながら長年積み上げてきた取組について充実・深化に努めている例や、訪問による直接指導とオンラインによる指導を組み合わせる継続的に大学の研究室と連携し課題研究の質を高めている例等も見られた。さらに、オンラインを活用した卒業生と生徒との交流の場を新規に企画する例等、積極的に取り組むものも見られた。
- ・研究計画の管理体制について、SSHを担当する部が取組を推進しつつ、委員会が全体統括を行うなど、工夫しながら全校的な体制を構築している例が多く見られた。それぞれの会議の性格を踏まえつつ定期的に企画・検討や進捗確認を行う例や、その際、会議を週時程に位置付けることで担当教師の負担軽減につなげている例も見られた。ただし、SSHの研究開発組織とその他の校務分掌や教科との関係が判然としない例等も一部に見受けられた。
- ・成果の分析について、意識調査やルーブリックを用いた評価等により生徒や教師の変容を測定する様々な例が見られた。SSH主対象生徒とそれ以外の生徒や、SSHの研究開発に係る科目を担当する教師とそうでない教師の比較等、工夫して成果の分析を行う例も見られた。ただし、客観性や具体性に課題が見られたり、生徒の自己評価にのみ重点が置かれていたり、卒業生の活躍状況の把握が不十分であったり、研究開発の目的・目標と成果の分析との整合性に疑義があったりする例等も一部に見受けられた。
- ・運営指導委員会の指導を踏まえ、多くの指定校は、適切に改善を図っていた。ただし、指導を受けた改善が十分でなく、しっかりとした取組が望まれる例等も一部に見受けられた。

② 教育内容等に関する評価について

- ・理科や数学はもとより国語や英語、地理歴史等を含めてSSHの趣旨を踏まえて学校設定科目を設けたり、文系・理系問わず理科の4分野を普通科の全生徒が履修することとしたりするなど、理数系教育に重点を置き、教科・科目を工夫して教育課程を編成・実施している様々な例が見られた。ただし、当該学校としての特色が判然としない例も一部に見受けられた。
- ・課題研究について、3年間を通して系統的に取り組んでいたり、生徒の主体性が発揮されるよう工夫していたりする様々な例が見られた。その評価についても、ルーブリックによる評価で説明会等を通して生徒にも基準に合わせた到達目標を意識させたり、ポートフォリオに基づいた生徒と教師の面談を行ったりするなど、様々な例が見られた。ただし、第3学年での取組が不十分である例や、教育課程上で十分時間が確保されておらず、研究の深まり等に懸念がある例等も一部に見受けられた。
- ・カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえ、課題研究や探究的な学習活動と通常教科・科目との連携を図るとともに、通常の科目でも探究的な学習活動に取り組んでいる様々な例が見られた。ただし、課題研究と他の教科・科目との連携、その他の各教科間の連携が不十分な例等も一部に見受けられた。
- ・多くの指定校において、SSHのねらいに即した特色ある教材を様々な開発していた。作成した教材を洗練させるとともに、他校からフィードバックを受けるなどして、取組を更に進めることが期待される。

③ 指導体制等に関する評価について

- ・多くの指定校が理科や数学以外の教師も含めた全校的な指導体制を構築していた。課題研究において各クラスの担任等が担当しつつSSHを推進する部の教師が進捗状況の管理や支援等として関わったり、

上級生が下級生に指導したりするなど、工夫して積極的に取り組んでいる様々な例が見られた。

- ・大学・企業等の外部講師や、卒業生や大学院生のTA等の外部人材を活用しながら、生徒に高度かつ幅広い興味・関心に応じた指導を行っている様々な例が見受けられた。ただし、生徒が主体的に探究活動を行う点で課題がないか懸念される例も見られた。
- ・教科横断型の研究授業の実施、探究的な学習の指導経験が浅い教師と豊富な教師とを意図的に組み合わせた指導体制の構築等、教師の指導力向上に向けた様々な取組が見られた。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価について

- ・大学や研究機関、企業等との連携について、多くの積極的な取組の例が見られた。大学での特定の講義の受講を高等学校の単位として認めている例や、事前・事後学習のプロセス等を含め丁寧に企業協働プログラムを実施している例も見られた。ただし、連携が単発の取組に留まっている例や、連携等が研究開発の目的・目標に照らし効果的なものになっているかといったことについて吟味が望まれる例が一部に見受けられた。
- ・地域等との連携については、地域の小中学生の自然科学への興味・関心を高める活動の実施、他校も含めた課題研究発表会等の開催等の様々な例が見られた。中には、地域の理数系教育の核となっている例も見られた。
- ・国際性を高める取組については、語学力の育成を中心とせず、科学技術人材の育成を重視して取り組んでいる様々な例が見られた。中には、外国の学校と国際的な共同研究を行う例等も見られた。
- ・教育課程外の活動（部活動等）については、生徒が活発に活動し、優れた成果をあげている様子が多くの例で見受けられた。国際科学オリンピック等の理数系コンテストや学会での発表等に加えて、地域の理数系教育の振興に熱心に取り組む例も少なからず見られた。

⑤ 成果の普及等に関する評価について

- ・学校内における研究成果の共有・継承として、研修のほか、教材や成果物等を電子媒体で蓄積・共有したり、指導体制を工夫したり、課題研究の指導法を引き継げるようマニュアルを作成したりするなど様々な例が見受けられた。
- ・多くの指定校において、公開の授業研究会等を実施したり、学校のホームページで情報発信したりしていた。学会等で積極的に研究成果を発表する例や、視察を受け入れている例が少なからず見られた。各指定校においては、引き続き、様々な機会を活用して、全国に向けた成果の普及・発信に積極的に取り組んでいくことが求められる。なお、開発した教材のホームページ上での公表が未だ行われていない例も一部にあったが、そうしたものについては、早急な対応が求められる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価について

- ・各管理機関においては、教員の加配や、SSHに意欲的で力のある数学・理科等の教師、理数系学部出身者であるALT等の配置、教員公募制、事務員の増員といった人的支援や、SSHのための別枠での予算措置等、様々な支援を行っていた。理科において女性教師を積極的に採用することで女子生徒にとって将来のロールモデルの一つとなる教師を確保しようとする例も見られた。各指定校の特色や課題に応じた適切な支援及び指導助言を管理機関としてより一層積極的に行っていくことが望まれる。
- ・域内の関係校の連絡協議会や合同研究発表会、探究活動に関する教員研修等を開催し、取組の推進を図っている例が多く見られた。指定校が附属校であることを生かして高大連携の強化を図っている例も見られた。ただし、地域の施策における指定校の位置づけを明らかにすることが望まれる例も一部に見受けられた。